

## 2007 年度 小委員会活動成果報告

(2008 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	室内音響研究小委員会	主 査 名：岸永伸二 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：井上 勝夫 主 査 名：大鶴 徹
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2005 年度：室内音響の現状を把握し今後を模索</li> <li>・2006 年度：次世代重点テーマを設定</li> <li>・2007 年度：新規 WG 立上げ</li> <li>・2008 年度：WG 成果による設計資料刊行、データベース構築</li> </ul>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有り	
	佐藤洋(産総研),羽入敏樹(日本大学),岩瀬昭雄(新潟大学),小野朗(永田音響設計),買手正浩(大成建設),河井康人(関西大学),佐藤史明(千葉工大),中川清(清水建設),西川嘉雄(鴻池組),阪上公博(神戸大学),池上雅之(大林組),日高孝之(竹中工務店)	
設置 WG (WG 名：目的)	1) 音響指標測定研究 WG: 各種室内音響評価指標の標準測定法の提案を目指す。 2) 音声伝送研究 WG: 音声情報伝達の予測・評価手法について実務レベルの要求に応える手法の確立を目指す。 3) スピーチプライバシー研究 WG: 情報漏洩防止や個人情報保護といった時代的要求の高まりを受け、会話音声に関するプライバシー保護技術の確立を目指す。	
2007 年度予算	95,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1 .(名称) 第 6 2 回音シンポジウム「音声伝送性能設計・評価に関するアカデミックスタンダード刊行を目指して」 参加者数 46 名 (資料名) 同上
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1 . 室内音響活性化の議論を通し、新規にスピーチプライバシー WG を立ち上げた。 2 . 音声伝送 WG : 『音声伝送性能の設計・評価に関するアカデミックスタンダード(案)』を作成し、それに関して3月に音シンポジウムを開催する予定。 3 . 音響指標測定研究 WG: これまでの成果を整理し、今後の活動方針を議論した。 4 . スピーチプライバシー WG: プライバシの現状と研究の必要性について議論した。
委員会活動の問題点・課題	劇場やホール音響といった従来型の室内音響だけでなく、今後の新たな社会的ニーズを把握し、その対応に必要な室内音響技術を明確にしたい。そのために、他分野の研究者、技術者との意見交換などが必要である。また、若手研究者の育成にも目を向ける必要がある。

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。

\* 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。

\* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2007 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px 5px;">A</span> <span>B</span> <span>C</span> <span>D</span> </div>
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p><b>理由:</b></p> <p>近年、我が国において大型ホールや劇場の建設ラッシュが一段落し、室内音響分野に若干の沈滞ムードがあった。本年度は、情報漏洩防止や個人情報保護といった社会的ニーズに対応した“スピーチプライバシー研究WG”を立ち上げ、当該分野の現状や課題について議論した結果、新たな研究の必要性が見出されつつある。また、『音声伝送性能の設計・評価に関するアカデミックスタンダード(案)』を作成し、3月に音シンポジウムを開催(予定)するなど、積極的に研究成果の社会還元を行っている。このように、小委員会における議論を通じて新しい社会的ニーズを模索した結果、室内音響分野は再び活性化しつつある。今後、異分野交流、若手研究者の育成などを実施し、さらなる活性化の余地はある。</p> <p><b>1.室内音響研究小委員会:</b> ○室内音響活性化の議論を通して新たに活動方針を定め、活動の具体化を議論。また持ち回りプレゼンを実施。 2007年度はスピーチプライバシー研究WGを新たに立ち上げた。</p> <p><b>2.WGの活動成果</b></p> <p><b>2-1.音響指標研究測定WG:</b> 共同測定したデータの分析、さらなる詳細な検討を前年度に引き続いて進め、その中から新たな或いは早急に行うべき研究テーマを検討した。 室内音響測定関連の国際標準規格 ISO3382,ISO18233 の問題点等を議論した。 ISO3382, ISO18233 には記述のない実務における具体的な測定・解析法やノウハウに関し、解説本やHPによる情報提供の必要性や可能性について議論した。</p> <p><b>2-2.音声伝送研究WG:</b> 2007年3月開催のシンポジウムでの意見を基に、評価基準の修正と設計、測定方法、各種データなどの資料収集及び整理を行い、実務に活用できる『音声伝送品質設計・評価のアカデミックスタンダード』刊行のためのドラフトを作成した。 2008年3月に音シンポジウム「音声伝送品質設計・評価に関するアカデミックスタンダード」を開催予定。シンポジウムでの意見を反映し、アカデミックスタンダードWDを完成する予定。</p> <p><b>2-3.スピーチプライバシーWG:</b> スピーチプライバシーとセキュリティに関する国内外の研究動向を調査し、日本における研究の方向性について議論した。 スピーチプライバシーの評価基準の作成のための基礎データ構築のため、薬局および病院等の医療機関のスピーチプライバシーの実態調査を行った。 アメリカ音響学会のスピーチプライバシー委員会との情報交換を行った。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。